



夜空を焦がす大煙火との競演を繰り広げます。

あでやかなどんちゃん踊り、
そして意匠を凝らした大人みこしがきおい、
夜空を焦がす大煙火との競演を繰り広げます。



中川 どんちゃん祭り

みんなの元気がひとつになって

村内各地区の祭りをひとつにまとめたどんちゃん祭り。
村民の元気がひとつになったようなパワーが伝わります。

かわいらしい子どもみこし、勇壮な陣馬太鼓の響き、
中川天龍振興会のダイナミックな

YOSAKOIソーランの舞、

あでやかなどんちゃん踊り、

そして意匠を凝らした大人みこしがきおい、

夜空を焦がす大煙火との競演を繰り広げます。



夢に向かい、上をめざす

陣馬太鼓

「陣馬太鼓 独特の味わいは、真似ようとしてできないとよく言われます。太鼓連をつくって地域を活性化しよう―大草地区活性化委員会の提案を受けて、平成4(1992)年に結成された陣馬太鼓。20代から60代まで年代が広く、男女比も平均しているのが特徴です。大人連17名、子ども連25名の所



帯は、週3回の練習を仕事後の夜にみっちり行います。疲れて大変と思いきや、「太鼓の音が身体の一部になっているので、大変とは思わない」そうです。太鼓は音による表現。たとえきちんとリズムを踏んでも、それだけでは相手に響き、感動を与える音は出せないといえます。めざすものは打ち手としての成長。これが活動の原動力になっています。

中川天龍振興会

中川天龍振興会の発足は平成13(2001)年。北海道中川町との交流がきっかけで誕生しました。会の名称も踊りの先輩に当たる中川町と同名。その年さっそく合同チームを結成して、札幌のYOSAKOIソーラン祭りに参加しました。

かかります。近場では宮田村の商工祭参加がきっかけで、「梅舞会」が宮田村に誕生し、以来交流が続いています。「大会に向けて練習を重ね、本番で力を出し切った時の達成感。これがあるからやめられません」とメンバーのひとりはいいます。「見る人を魅了できるようになりたい」という向上心があるから、普段の練習も真剣そのものです。現会長の福沢由希子さん(上前沢)は、「踊っている時は無心になれる。これが魅力」といいます。今後はさらにYOSAKOIソーランを定着させていきたいといっています。

